

ネイチャーポジティブ シンポジウム



よみがえれシジュウカラガン ふるさと仙台へ！

～雁が舞う懐かしい未来をとりもどすために～

皆さんは、シジュウカラガンという冬の渡り鳥をご存じでしょうか？
かつて仙台平野にもたくさん渡来していましたが、約90年前に絶滅の危機を迎えました。八木山動物公園など国際プロジェクトの尽力で奇跡的にその危機を脱し、仙台に群れがよみがえる日が見えてきました。

一方、失われゆく生き物の豊かさを未来に向けて回復させていく国際目標「ネイチャーポジティブ」。市民から企業までさまざまな取り組みが始まっています。豊かな湿地環境を必要とするシジュウカラガン復活の経験は、その実現に向けて多くの気づきをもたらしてくれるでしょう。

いにしへの越冬地・仙台にシジュウカラガンが群れて舞う未来に思いを馳せながら、ネイチャーポジティブの実現に向けた共創のアイデアを市民のみなさんと共に考えます。

2026
3/7 Sat
13:00 - 16:15

参加費無料

プログラム

詳しくは裏面をご覧ください。
演題は変更の可能性があります。

- シジュウカラガンの魅力
- シジュウカラガンがたどった歴史とネイチャーポジティブ
- 古文書から仙台周辺のシジュウカラガン越冬地を探る
- シジュウカラガン保全への歩みと仙台市八木山動物公園の役割
- コーヒーの販売を通じた「復活プロジェクト」の支援
- 高校生が取り組む普及啓発
- 農業と環境のアプローチから考える課題と方向性
- 杜の都・仙台のネイチャーポジティブ実現に向けて
- パネルディスカッション
～シジュウカラガン復活の取り組みから、ネイチャーポジティブ実現のヒントをユース世代と共に考える～

会場

日立システムズホール仙台
エッグホール

仙台市地下鉄南北線 旭ヶ丘駅すぐ
※公共交通機関をご利用でご来場ください。

定員
70名

参加申込み

右の二次元コード
または下記URLから
<https://forms.office.com/r/i3nvXtXz7g>



- 定員に達した時点で申し込みを締め切らせていただきます。
- 上記で申し込みできない場合は、下記事務局までお問合せ下さい。

主 催	日本雁を保護する会
企画運営	東北緑化環境保全(株)
協力	東北大学COI-NEXT ネイチャーポジティブ 発展社会実現拠点、(学)仙台育英学園 (株)藤崎、三本珈琲(株)
協賛	環境省東北地方環境事務所、宮城県、仙台市、 (公財)日本野鳥の会宮城県支部、 (一社)東北経済連合会、(株)七十七銀行
後援	

運営事務局・お問い合わせ 東北緑化環境保全株式会社 姉齒・横尾・香川

TEL: 022-263-0607 Mail: trk_40karagan-repj@tohoku-aep.co.jp



プログラム

時間	演題(変更の可能性があります)	(敬称略)
13:00	開会	
13:00-13:05	開会挨拶	日本雁を保護する会 会長 呉地 正行
13:05-13:15	シジュウカラガンの魅力	仙台育英学園 高校生
13:15-13:40	シジュウカラガンがたどった歴史とネイチャーポジティブ	東北緑化環境保全(株) 流域環境研究所長 香川 裕之
13:40-14:00	古文書から仙台周辺のシジュウカラガン越冬地を探る	日本雁を保護する会 会長 呉地 正行
14:00-14:15	シジュウカラガン保全への歩みと仙台市八木山動物公園の役割	仙台市八木山動物公園 佐藤 純栄
14:15-14:30	コーヒーの販売を通じた「シジュウカラガン復活プロジェクト」の支援	(株)藤崎 マーケティング統括部 シニアマネージャー 千葉 拓
14:30-14:45	休憩	
14:45-15:00	高校生が取り組む普及啓発	仙台育英学園 高校生
15:00-15:15	農業と環境のアプローチから考える課題と方向性	宮城大学食産業学群 教授 作田 竜一
15:15-15:30	杜の都・仙台のネイチャーポジティブ実現に向けて	仙台市環境共生課長 金久保 美喜
15:35-16:10	パネルディスカッション シジュウカラガンの取り組みからネイチャーポジティブ実現のヒントを ユース世代と共に考える	ファシリテーター: 東北大学COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展 社会実現拠点 特任教授 福島 誠子
16:10-16:15	閉会挨拶	(一社)東北経済連合会 副会長 宮本 保彦



シジュウカラガン復活のあゆみ



かんぶんきんぶ
江戸時代の図鑑「観文禽譜」
のシジュウカラガン

① 江戸時代

仙台周辺ではシジュウカラガンが多数越冬していた。

観文禽譜には、『シジュウカラガンは仙台周辺に甚だ多く、終日狩りをすると十のうち七、八はこの鳥を獲た』との記述あり。



② ～昭和初期(1935年頃)

仙台・多賀城の七北田低地では数百羽の群れが見られたが、その後姿を消し絶滅寸前に。

シジュウカラガンの繁殖地・千島列島などで、毛皮目的で放し飼いにされたキツネに食べられてしまったことが主な原因。



③ 1983-2010年

日ロ米連携によるシジュウカラガン羽数回復計画進行。

アメリカから繁殖用の親鳥を譲り受け、仙台市八木山動物公園で増やし、ロシアの千島列島に運び続けた。



シジュウカラガンの越冬個体数の経年変化
(日本雁を保護する会まとめ: 1972-2023年)

④ 2007/08冬～

日本への渡来数が増えはじめ、2023/24年冬には10,000羽を超える。

繁殖地で放鳥された個体が家族を伴って飛来した2007/08年以降、急速に越冬個体数が増加。近年は七北田低地など仙台周辺でも小群が見られる機会が増えてきた。



仙台東部水田に飛来した205羽のシジュウカラガンの群れ
(2025年1月1日、撮影:野口泰司)